

神話の国、みやざき西都。
未来を照らす「地図」のようなドキュメンタリー



みちのみちのり

二千年をつなぐインフラ 柔らかい土木と明日の地図

古木洋平監督
とのフィルム
トーク開催！



7/13 (土) 都城市立図書館 ギャラリーB

mallmallシアター

上映時間 75分 各回定員 25名

①10:30 ②13:30

※②の回終了後、古木洋平監督（都城市在住）とのフィルムトークイベントを開催します。映画製作の裏側のおはなしと、都城で映画できるかな？キックオフ！の作戦会議をします。

申込・問合せ先 都城市立図書館 2F そうだんカウンター
電話 0986-22-0239

二千年たっても、逢いたい人がいる

瑠だいすき



古の昔にホテルがあったかわからんけど…
ロマンチックですわね

守田さん



咲いたその一輪が
愛おしいっちゅうかほ

花を育てる



楽しければ
いいんですよ

伊東さん



普段気にしないことに
目が向けられる道ですわ

道づくりを担う



昔から調れのある道を
大事にしていかなければ

古墳の番人



ここにくるのが
楽しみなんですわ

神話の語り部



はい！皆さんで古墳に
あいさつしましょう

図師さん



ここに来ると
思い出しますわ…

夫の想いをつく

神代の昔。高天原よりやってきた天孫ニギノミコトは、ある川のほとりでコノハナサクヤヒメと出逢う。二人が暮らしたゆかりの地をつなぐ道は、やがて「記紀の道」と名付けられ、古より湧き出づる水辺とともに、今もなお人々は寄りそい暮らし続ける——。

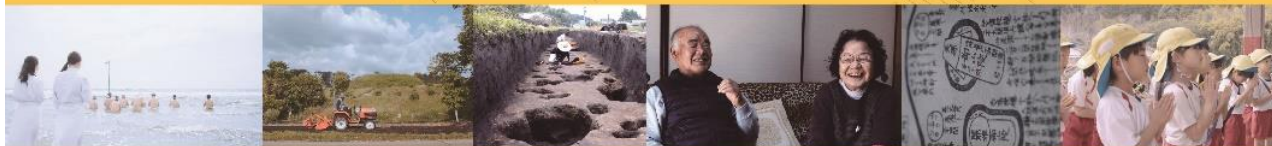
舞台は宮崎県西都市。おおらかな風景の中で、住民たちは、小川ではホテルを育て、水鳥のやってくる美しい池を守り、古代蓮や季節の花を育てる。記紀の道で繰り広げられる何気ない日常は、一枚の古代地図を通して、やがて神話の世界と重なりだす。

地域の愛情がおりなす一本の「みち」。目の前に、今を生きる道があれば、それはさっとどこかへ続いていることを教えてくれる。それはまるで、未来を照らす「地図」のようなドキュメンタリー。

公共事業をアップデートする「記紀の道」のみちづくり

かつてこの一帯が区画整理されようとする中、多くの遺跡が発見された。市は開発から保存へと舵を切り、2005年、風景を守り後世に伝えるために、記紀の道整備事業をスタートさせた。

小川、田んぼ、巨木といった土地の風景をデザインの拠り所とし、昔からそうであったかのような風景をめざした。行政と住民が協力しあい、15年以上かけて少しずつ完成させた。そうしたプロセスが評価され、グッドデザイン賞や国土交通大臣表彰手づくり郷土賞などを受賞。一般的には住民が関わる機会の少ない公共事業だが、地域づくりの仕組みにうまく組み込むことで、自走する風景づくりが続いている。



みちのみちのり
www.michinori-movie.com

監音：古木洋平 プロデューサー：清武清 企画：小笠原浩幸／伊東修司／崎谷浩一郎／西山健一
撮影：牛久保賢二／Matthew Carmody 音楽：Polar M／東瑛子 アニメーション：濃辺亮
2022年／日本／70分／カラー／16:9／DCP 製作：映画「みちのみちのり」製作委員会



監督 古木洋平

1981年鹿児島生まれ。都城市在住。

近年では、映画「銀鏡 SHIROMI」（2022年製作／撮影・編集）、映画「みちのみちのり」（2022年製作／監督）などの映画制作をする一方で、企業や自治体とのCM/PV制作、動画配信など行っている。yoheicogi.com